

秋葉原見学レポート



ウェルカーゼミナール

国際日本学部 日本文化学科 多田 伊吹
国際日本学部 歴史民俗学科 村岡 拓真

10時半にJR秋葉原駅に集合し、電気街や秋葉神社を見学しました。秋葉原といえばアニメやメイドなどオタク文化のイメージが強いですが、元々はパソコンのパーツや電気製品がメインの電気街でその名残を感じました。散策時にはゲームやアニメのキャラクターが大きく描かれた広告が沢山あり、ほとんどは女性のものでした。駅の近くにあるラジオ会馆ではフィギュアの展示やトレーディングカードなどのグッズが販売されていてフィギュアはほとんどが男性向けの美少女フィギュアでした。印象に残ったのは海外からの観光客の多さでした。ゼミの活動以前に訪れた時は海外の人をあまり見かけなかったのですが、今回コロナが落ち着いたこともあり日本人よりも外国人観光客の方が多く、観光客が戻りつつあると感じました。また、男性向けのフィギュアが売られている場所にも男性キャラクターのグッズが販売されていて女性のお客さんも少なくなかったことはキャラクターの文化が男女問わず大きな市場になっていることを象徴していると思います。

昼の休憩時間にめいどりーみんに入国しました。多くのゼミ生が初めてのメイド喫茶に心を弾ませている中、1人は今回の活動の前にメイド喫茶を予習してきたと言っており気合いが入っていました。エレベーターのトビラが開くと、ピンク色のかわいらしい雰囲気、の部屋と甘い香りが異世界へと迎えてくれました。めいどりーみんにおける楽しみ方やルールを確認した後、席に案内していただきました。メイド喫茶は男性の利用者が多い印象でしたが、家族連れや外国人観光客の方々もおり、メイドさんも気さくに話しかけてくださるので比較的カジュアルな印象を持つことができました。メイドさんと呼ぶときは「にゃんにゃん」と言わなければなりません。注文方法はQRコードを読み取り、サイト上で豊富なメニューの中から選ぶというシステムでした。一番初めにできあがったのはウェルカー先生のアイスコーヒーでした。両手でハートの形を作りゼミ生11人分の「もえもえきゅーん！」が注ぎ込まれていきます。私はオムライスを頼み、ケチャップで「ワンちゃん」を書いていただきました。ペンライトを持ってライブを楽しんだ後、くじの一等を引いたゼミ生のおかげでゼミ生全員と6人のメイドさんとの記念撮影ができました。最後に自分のニックネームを決め、出入国するためのパスポートが渡されます。しかし、出国して秋葉原の街並みを見ると、やはり一般的な喫茶店とは異なるものを感じました。食べ物ではなく、あの空間にいるメイドさん中心に、そのコンセプトを消費しているのだと気づきました。トランプに遭いやすいという理由でルールやマナーを厳しくされているのも理解できます。

最後に訪れた明治大学米沢嘉博記念図書館では少年ジャンプをはじめとする大量の漫画雑誌や単行本が保

存されており、とても個人のコレクションであったとは思えないほどの量でした。漫画のために数件の家を持つていたと聞き驚きました。多くの蔵書がある中でも特に印象に残ったのは、2022年の冬に行われたコミックマーケットで発行された新刊のほとんどが保管されていたことです。私はこのコミケに参加していたので段ボールに書かれたサークルの場所は当時の様子を思い出せました。オタクの間で楽しまれていた同人誌が今では一つの文化的価値を持つ書物として扱われていてオタク的な活動はもはや趣味の領域に収まらないものになっているのかもしれない。

以上が私たちの秋葉原見学の報告になります。実際に行ったことがない方々にも秋葉原のオタク文化や雰囲気を感じていただければ幸いです。

ミュージカル「マチルダ」の観劇



マチルダのパネルと一緒に

外国語学部 英語英文学科
鈴木宏枝ゼミナール

二〇二三年四月十五日に、外国語学部英語英文学科鈴木ゼミの三年生の希望者は、東急シアターオーブでミュージカル「マチルダ」を観劇しました。参加者の感想の一部を報告します。